

三大感染症の対策協議

岡山で国際保健セミナー



国際機関の担当者らが感染症対策について意見交換したセミナー

エイズ、結核、マラリアの三大感染症への国境を越えた対策などを話し合う「国際保健セミナー」が二十六日、岡山市内であった。国

際医療ボランティア団体「AMDA」などの主催で、国際機関や岡山県内の関係者ら約七十人が参加した。ルワンダ保健省のキ

ヤロライン・カヨンガ事務次官は、国際援助などにより六年間でマラリア患者の死亡率が五分の一に減ったと報告。世界エイズ・結核・マラリア対策基金（本部ジュネーブ）やカンボジアの非政府組織（NGO）、岡山大などの代表者らも国内外の現状などを発表した。

対策基金日本委員会の山本正委員は「地域レベルの取り組みを国際社会が支える仕組みづくりが重要」と強調した。

セミナーは、約二十五カ国の代表者らが三大感染症について検討したシンポジウム（二十三、二十四日、東京）を受け、各国代表者らを招き岡山市など全国六都市で開かれた。

（教蓮孝匡）